

ヒ素の食品健康影響評価（自ら評価）について

1. 海外における評価

(1) 1987 年 IARC

清涼飲料水中の無機ヒ素による膀胱、肺、皮膚の発がん性がヒトで十分な証拠があると評価

(2) 1988 年 JECFA

無機ヒ素の PTWI を 15 μ g/kg 体重/週に設定（有機ヒ素の PTWI は未設定）

(3) 2004 年 IARC

有機ヒ素のジメチルアルシン酸（無機ヒ素の代謝物）による発がん性が動物実験で十分な証拠があると評価

2. 化学形態別知見の蓄積

(1) ヒ素の毒性は化学的な形態によって大きく異なる

(2) 近年、ヒ素の形態別分析法が開発

(3) 化学形態別にヒ素の知見が蓄積

3. 我が国におけるヒ素曝露

(1) 総ヒ素の摂取のうち 8 割以上が魚介類や海藻類

(2) 農産物では米からの摂取が比較的多い

4. 食品安全委員会における知見の収集・整理状況

(1) 平成 16 年度調査

清涼飲料水中の無機ヒ素の評価に必要な知見を整理

(2) 平成 18 年度調査

ひじき中のヒ素の摂取量調査を中心に整理

(3) 平成 20 年度調査

無機ヒ素及び有機ヒ素の体内動態及び毒性等に係る知見を整理